

2017年6月25日(日)

主 題：「人生で受ける最高の祝福」
—完全な大祭司による—

テキスト：ヘブル人への手紙7章11～28節

はじめに

- ・前回、私は「私たちの大祭司イエス」（副題：「真の仲保者」）と題して、メッセージさせていただきました。私たちはメルキゼデクに等しいイエス・キリストを、真の仲保者としてお迎えしました。それは律法によるのではなく、ただ神の恵みであること学びました。
- ・神の恵みの鍵は、仲保者にあることを学びました。神と私たちとの間を繋いでくださるお方は、イエス・キリストです。人生でこのお方に会うことは、最高の幸福です。すでにイエスを信じている者は、古い律法から解放されました。
- ・ですから律法から解放された今は、「恵み」の時代です。私たちは神の「恵み」を無駄にするのではなく（恵みずれしないように）、感謝心を持って喜んで歩むことを学びました。
6:20 イエスは私たちの先駆けとしてそこにはいり、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司となりました。
- ・そこで、私たちにとって大切なことは次のことでした。
 1. 神のみことばを信頼し受け入れること
 2. 神に感謝し従順にお従いすること
- ・さて、今日私たちは人生で受ける最高の祝福を考えましょう。それは、「完全な大祭司であるイエス」を知り、信頼して歩むことです。
2点

大切なポイント**1. イエス・キリストの完全な救い****1) 律法の変更****7:11 もしレビ系の祭司職によって完全に到達できたのだったら、新改訳****7:11 もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとするならば、
新共同訳**

- ・ここで二つの聖書翻訳に注目してください。「完全に到達」とか「完全な状態」とは、私たちの罪が拭い去られ、アダムの罪以前の罪なき者となる状態のことです。すべての人は罪ある者ですから、その罪から解放されることは、人が求める最終、そして最高の願いです。
- ・人はこの恵みに与ったならば、人生の目的の99%達成したことでしょう。残りの1%は、この大いなる恵みを無駄にしないよう、日々聖霊の導きと助けによって、やがて天に召される日まで、主イエスを仰いで歩むことです。
- ・イスラエルの民が命がけで守り、そして今も必死に守ろうとしている律法、しかし人はそれによって「完全な状態」になることはできません。
 - ・聖書の言葉； **ローマ人への手紙**

3:20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

- 神がイスラエルの民に律法を与えられたのは、

- ① 罪の意識が生じるためです。
- ② 神に導く導き手となるためです。

世の中の制度や法律、律法はつねに変化していきます。聖書 ⇒

- 7:12 祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなりません、新改訳

旧約聖書では、レビ族による祭司制度によって、罪が清められ、赦されました。しかし今は、イエス・キリストによって、この制度は必要ではなくなりました。ですから律法にも必ず変更があります。

2) 律法の目標

- 7:18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止されましたが、聖書を読んでいる方は、この聖句はイエスが言われた言葉と相違すると思われることでしょう。イエスは言われました。

マタイの福音書

5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためにではなく、成就するために来たのです。

5:18 まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。

5:19 だから、戒めのうち最も小さいものの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。

- イエスは律法を廃止するために来たのではない、と言われました。しかしヘブル人への手紙の著者は、「**廃止されました**」と言いました。律法を廃止することは、モーセの律法を命がけで守っているユダヤ人は絶対受け入れられません。それどころか、このように言う人は死罪にあたると思います。

- 「廃止」とい単語は、ドイツ語ルター訳聖書では「**取り上げられた**」となっています。

- 皆さん。ここの意味は、次のようです。ローマ人への手紙

10:4 キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終りとなられたのである。
口語訳

10:4 キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

新共同訳

10:4 キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。
新改訳

- つまりキリストが来られたのは、「**律法の終わり**」、「**律法の目標**」でありました。もう以前の律法は「**取り上げられた**」のです。キリストの十字架によって、旧約聖書の預言は成就しました。イエスは十字架上で息を引き取られた直前に、なんと言われたでしょうか。

19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「**完了した。**」と言われた。そして、
頭を垂れて、霊をお渡しになった。ヨハネ

「完了した」(完成した、成し遂げられた)とは、「旧約聖書の預言はついに成就した」と言う意味です。

- ですから、ヘブル人への手紙の著者が断言したように、律法はイエス・キリストによって完成しました。イエス・キリストはアブラハム、モーセ、アロン、あるいは他の大祭

司の誰よりも、はるかに優れていることを示しています。著者は次のように述べました。

- 7:19 ——律法は何事も全うしなかったのです。——他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。
- 7:25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。
- 神はキリストによって、「完全に」救ってくださるお方です。それはご自身の御血によって、神と人との間を永遠に執りなしてくださるからです。イエス・キリストは歴史上に実在されたお方です（架空の人ではない）。キリストの十字架、キリストの死、そして最も重要な復活も事実です。
- イエスは死にのまれたのではなく、打ち勝った勝利者です。キリストによる以外に、救いはありません。キリストこそ救いの根拠であり、完全な救いです。これがこの手紙の強調点です。

2. 大祭司の祝福に与る特権

1) 祝福の言葉

- 一般的に牧師は礼拝の最後に、祝福の言葉を宣言します。私たちは祝福の言葉を、どのように受け止めているのでしょうか。その言葉を礼拝が終わる合図ぐらいに、考えてはいないのでしょうか。そうではありません。
- 北浜チャーチの礼拝の最後は、「アロンの祈り」を祝福の言葉としています。
⇒「アロンの祝祷」民数記6章
6:23 「アロンとその子らに告げて言え。あなたがたはイスラエル人をこのように祝福して言いなさい。
6:24 『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
6:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
6:26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』
6:27 彼らがわたしの名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。』
- 皆さんはご存じのように、アロンはモーセの兄で祭司でした。イスラエルの民と、神との間に立ち、仲介者としての働きをしました。このアロンの祈りが、一番はじめの「祝祷」と言われます。興味深い点は、主からイスラエル人を「祝福しなさい」（すべき）と言われたことです。
- 祝福とは、何でしょうか……。祝福という言葉には、いろんな定義があると思います。しかし原意は、「神がかがんで、私たちに仕える」という意味です。私は、”「祝福」とは神の恵みの下に置かれること”、であると思います。
- ところで、「アロンの祝祷」は、三つの部分から構成されています。
①6:24 『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
ここで、「主があなたを」と単数形で言われました。前節までのところでは、複数形（民）でした。神はあなたに祝福を与えられるお方です。神の語りかけ、神の祝福はあなたへ個人的に臨むものです。
- この表現は、主の守りを意味しています。詩篇23篇のように、神は良き羊飼いです。イエスは「わたしは良き羊飼いです。」（ヨハネ10：11）と言われました。ユダヤ教の資料によれば、祭司たちはこの「アロンの祝祷」を神殿において、祭司は日々

祈ったと言われます。また今日もユダヤ人たちは会堂において、この「アロンの祝祷」を祝祷としています。

② 6:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

- ・主が御顔を太陽の光のように、あなたに照らされるならば、恵みが与えられます。神の恵みは、赦し、あわれみ、霊的賜物、平和、主との交わりなどです。主が御顔をあなたに照らされるならば、神の恵みの下におかれます。
- ・詩篇にはそれらの祝福の詩歌が、たくさん歌われています。それらは「アロンの祝祷」への応答とも言えましょう。ここに主である神と、選民イスラエルとの関係を学ぶことができます（つまり神と私たちの関係）。

③ 6:26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

主が御顔をあなたに（の上に）向けてくださるなら（パーソナルな視線）、平安が与えられます。平安はヘブライ語の原語では、「救い」と言う意味もあります。与えるという言葉は、「物を与える」、「何かをやり遂げる」、「そのように整える」という意味です。

- ・キリストこそ、私たちの平安です。イエスは「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。」（ヨハネ14：27）と言われました。

- ・このように、「アロンの祝祷」では⇒神の祝福、守り、光・輝き、愛・好意、平安が祈られています。

- ① 主である神の守りがあるように
- ② 主があなたに御顔を照らしてくださる
- ③ 主が御顔をあなたに向けてくださる（個人的視線）。
⇒神の祝福は高揚していきます。

- ・これは人間の願望の祈りではなく、神の命令でアロンが行った祝福の祈りです。つまり神が祝福してくださるという保証付きの祝福の祈りです。
- ・祝福の祈りは、一人一人を祝福する神の言葉です。その祝福の言葉は、個々に与えられ、そこに主の守りがあります。主の祝福のことばは、その通りに成ると受け止めることです。そうでなければ、それは虚しいものになってしまいます。

- ・ところで、アブラハムはメルキゼデクから祝福を受けました。

7:1 このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを出迎えて祝福しました。

- ・このメルキゼデクは、イスラエルの民ではありませんでした。彼はアブラハムから十分の一のささげ物を受けとり、神の約束を受けたアブラハムを祝福しました。祝福を与える人は、祝福を受ける人よりも偉大なはずです。
- ・聖書はこの手紙だけでなく、ほとんどの手紙の書き出しと締めくくりに、祝祷を書いています。
- ・皆さん。いかがでしょうか。私たちも手紙の最後に、「あなたの健康をお祈りしています。」と書いたりすることがあります。しかしそう言いながら、その実その人のために祈ってないことがあります。聖書の祝祷は、それとは全く違います。

- ・祝福とは、「神がかがんで、私たちに仕える」ことです。

⇒それが、「神の恵みの下に置かれること」です。祝福がそこにあることを宣言するものです。その重みは大きいものです。そう宣言したら、その通りのことがそこに起こる

からです。祝福の言葉の重みを、しっかりと受け止める人は幸いです。

- ・私たちは神の祝福がなければ、満足する生活を過ごすことはできません。ほんとうの意味で、人間は神の祝福によってのみ、祝福の生活ができるのです。私たちが毎週、安息日に礼拝のために教会へ集う理由の一つは、神に近づき、神からの祝福をいただくことにあります。
- ・旧約聖書時代、祭司たちは動物の犠牲を捧げることによって、罪人である者が聖い神に近づきました。しかし、メルキゼデクの位に等しい大祭司であるイエス・キリストが来臨されたことによって、神に近づく道が開かれました。イエスは「わたしは道であり、真理であり、いのちです。」と言われました。著者はここに、真の道、真理、いのちがあると述べています。
- ・ですから、動物の犠牲によるのではなく、神の御子イエス・キリストによって、聖い神に近づくことができるようになりました。なんとこの恵みではありませんか。

2) 神の祝福

- ①神の最大の願いは、私たちに祝福することです。大きく分けて、神の祝福は2つあります。①霊的祝福と②物的祝福のことです。一般的に御利益を求める人は、②の物的祝福を追求します。
- ・しかし聖書はクリスチャン生活には、この二つが必要と教えています。そしてそのバランスが大切です。
- {例 話}
- ①霊的祝福とは、神の恵み、神の愛、神のあわれみなどに触れることです。
 - ②物的祝福とは、生活で必要とするあらゆる分野で神から受ける祝福です。
- ・米国の企業カウンセラー Paul Mayer (ポール・マイヤー) 氏は、「人間はトータルで祝福を受けることが究極的な幸せな姿である。」と言いました。精神、経済、家庭生活、社会生活、などすべての面であります。
 - ・聖書は次のように勧めています。
愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。3 ヨハネ:2
 - ・聖書は、霊的にも物的にもトータルで祝福を受けることを神は望んでおられると教えています。それには、神が与えてくださる祝福の内に身を置くことです。

- ②アブラハムが神から受けた祝福を思い出してください。神の約束のことばのように、子孫の祝福を受けました。空の星の数のように、浜の砂の数のように増えると(無数)。しかし、妻サラは不妊の女性でした……。人間的には、子どもを宿すことは不可能でした。何が必要であったのでしょうか？

⇒神への信仰(信頼)

- ・神はアブラハムに、土地の約束も与えられました。約束の地(カナン)を与えるとされました。確かに神は、イスラエルの民に約束の土地を与えました。何が必要であったのでしょうか？

⇒神への信仰(信頼)

- ③苦しみの人、試練の人、忍耐の人ヨブを思い出してください。彼には7人の息子と3人の娘がいました。しかしその10人の子どもは全員亡くなりました。その時のヨブの言葉は次のようでした。

1:21 そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」

1:22 ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。

- ・彼はその後、無数の試練に出会いました。晩年に彼は何と言ったのでしょうか？

42:2 あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。

42:12 主はヨブの前の半生よりあとの半生をもっと祝福された。それで彼は羊一万四千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。

42:13 また、息子七人、娘三人を持った。

- ・皆さん！ ヨブには何が必要であったのでしょうか？

⇒神への信仰（信頼）

- ・聖書は神の祝福に与った人々の生涯を記録しています。私たちも神の祝福に与る者とさせていただけようではありませんか？ 何が必要でしょうか？

⇒神への信仰（信頼）

- ・私たちは神への信頼を持つには、どうすれば良いのでしょうか・・・？

それは人となられた全きお方イエスを、キリスト（救い主）と信頼し、お従いすることです。神を信じ、神のことばに従順であることです。そすれば、神は祝福をお与えくださいます。それは神のお約束です。私たちは、それを信じているのでしょうか。

ま と め

主 題：「人生で受ける最高の祝福」

—完全な大祭司による—

- ・今日のテキストでは、完全な大祭司イエスにあって、神を信じる聖徒は人生で最高の祝福に与る者とされることを学びました。そこで次の点を確認しましょう。

1. 神の祝福は完全な大祭司イエスによって与えられる
2. 神は信じる聖徒へ霊的・物的祝福を与えられる

- ・神の祝福は、恵みによって与えられます。そこに私たちが神を礼拝する信仰生活があります。

* God bless you!